

(1)児童の体力の現状

5年生
 ○男女ともに「握力」は県平均及び全国平均と比べ1P以上高い。
 ○男子は「握力」以外にも「上体起こし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」など多くの項目で全国平均を上回っている。中でも「握力」「反復横跳び」「20mシャトルラン」は全国平均に比べて1p以上高い。
 ○意識調査において、男女ともに「運動が好き」と回答している児童の割合が90%を超えており、県平均及び全国平均と比べて高い。特に、女子は県平均及び全国平均と比べて3%以上高い。
 ○意識調査において、「体育の授業の目標が示されている」「体育の授業で振り返る活動を行っている」という項目において、90%程度が肯定的回答をしている。県平均及び全国平均と比べて大きく上回っている。特に、「体育の授業で振り返る活動を行っている」については男女ともに20%以上の開きがある。
 ●女子は「握力」以外の全ての項目で県平均及び全国平均を下回っている。また、多くの項目で全国平均と比べて2p以上の開きがある。大きいものでは3.6%の差がある。
 ●男女ともに「立ち幅跳び」が県平均及び全国平均との開きが大きい。
 他学年
 ○男子は2、4、5、6年生の8割程度の児童がスポーツ少年団・スポーツクラブに所属している。
 ○朝食について「毎日食べる」という回答が男女ともに9割を超えている。「とらない」と回答している児童はどの学年もほとんどいなかった。
 ●「20mシャトルラン」についてはどの学年も男女ともに松江市の平均を下回っている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

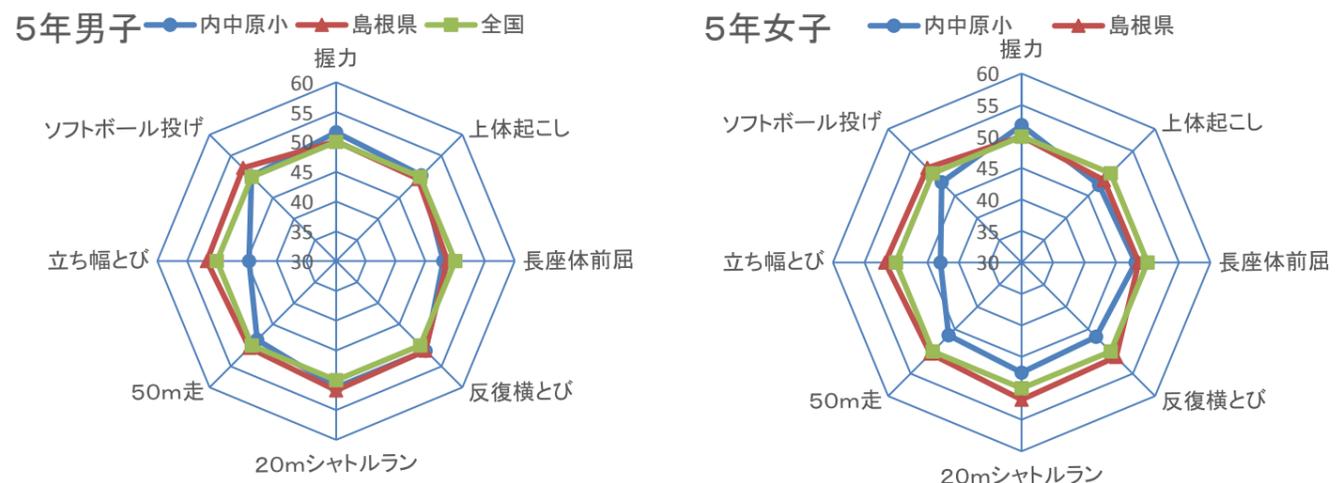
持久力・体力の向上について
 ○体力向上のために、体育委員会の活動として「1段とばしコース」などを作ったことで啓発活動ができた。
 ●持久力については松江市の平均を上回ることができていない。
 生活習慣の改善～メディアとの関わりについて～
 ○メディアコントロールウィークを利用して啓発運動をすることができた。
 ●メディアコントロールウィークの中で、体を動かすイベントなどを行うとより効果的な啓発になったと考える。
 「めあて」「ふりかえり」が充実する授業構想
 ○体育の学校訪問指導などを通して、校内で体育の授業力向上に取り組んだ。協議を通して、指導についての意見交換を行うことができた。

(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組
 ・「めあての提示」「ふりかえり」を充実させた取り組みを継続し、授業の充実をはかる。
 ・体育指導に関する研修会の開催や指導法の共有を継続し、学校訪問指導などを通して教員の授業力向上をはかる。
 ・「持久力」の向上を目指し、体育の授業の中だけでなく、委員会活動などと連携した取り組みを行う。
 ②地域や家庭との連携による取組
 ・地域スポーツ少年団との連絡会などを活用して情報交換を行い、学校での体力向上に役立てる。「しまね家庭の日」の取り扱いについては、連絡会で方針を共有し、適切に取り扱うことができるようになってきており、今後も継続する。
 ・保健だよりを通して、食育や姿勢、メディア視聴等の基本的な生活習慣について啓発を図る。特にメディアについては、メディアコントロールウィーク等を活用して、啓発を積極的に行う。
 ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 ・保護者と連携を取りながら、より良い生活習慣や食習慣づくりに取り組む。

調査実施者数(人) 1年(男子41・女子55) 2年(男子63・女子37) 3年(男子58・女子50)
 4年(男子52・女子46) 5年(男子49・女子64) 6年(男子54・女子54)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

